

繫離船作業について

船を岸壁につなぐ繫船作業、岸壁から放す離船作業とあわせて繫離船作業と言います。繫船作業では、繫船ボートで本船からロープを受け取り、繫船ボートから受け取ったロープを、岸壁上の作業員が順次係船柱にかけていきます。

繫離船作業は、本船の乗組員や作業員同士の連携と意思疎通が大事であり、熟練した作業員の瞬時の状況判断が必要です。また、巨大な船をつなぐロープは非常に重いですが、足場が悪い状況や悪天候のなかでも、迅速な作業が求められます。

一方、何らかの要因により繫留ロープが切断し、作業員に接触すると人命にも関わる可能性があります。

【写真・図】（提供：日本繫離船協会）

写真 1：本船よりロープを受け取る
繫船ボート（東京港）



写真 2：係船中にロープをかける作業
（名古屋港）



写真 3：係船柱にロープをかける作業
（神戸港）



写真 4：不安定な足場での繫船作業
（函館港）



写真 5：吹雪の中での繫船作業（伏木富山港）



写真 6：劣悪な係留ロープ

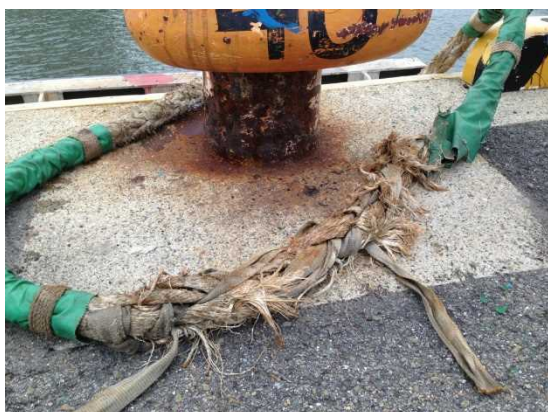


写真7：劣悪な係留ロープ



写真8：付属施設に絡んだ係留ロープ



写真9：付属施設に絡んだ係留ロープ



写真10：係留ロープが絡みにくい対策をした付属施設



図11：係留ロープ切断事例

